

事務事業名 原爆被害者の会補助事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：152

施策：	15	地域福祉の推進	財務コード	01030101-04-00
基本事業：	03	地域福祉を支え、推進する人や組織づくり	担当部	健康福祉部
基本事業の成果指標	福祉委員の数 地域での福祉活動に参加している市民の割合 福祉ボランティア数 コミュニティ単位で組織された民生委員協議会の数		担当課	生活福祉課
			担当係	地域福祉担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
特定非営利活動法人 筑紫原爆被害者の会			筑紫原爆被害者の会の運営費を補助する。 筑紫地区5市統一の補助額として1会員当たり1,000円補助している。 【筑紫原爆被害者の会の主な活動】 ・広報誌の発行 ・小中学校を対象として、実体験を話す語り部活動 ・追悼式等式典への参加 ・原爆被害者及びその家族に対する相談事業						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
原爆被害者の会の活動を支援することにより、原爆の恐ろしさ、平和の大切さを語り継ぐことができている。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標
筑紫野市の会員数		人	150	136	136	127			166
市内小中学校での語り部活動回数		回	7	3	7	7			7
5. コスト									
事業費		計	千円	150	136	127	112		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般		千円	150	136	127	112			
正職員人工数		人工	0.02	0.02	0.01				
正職員人件費		千円	161	158	77				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	311	294	204	112			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		小中学校での原爆被害授業を継続することにより、その悲惨さを語り継ぐことができている。また、原爆被害者の高齢化による減少及び戦争の風化により、語り部活動の重要性はより一層高まっている。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	会員数が減少傾向とはいえ、筑紫地区各小中学校への語り継ぎ証言は、戦争の悲惨さを伝える上で重要である。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は小	業務推進課題	なし						
成果向上余地	小さい								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）									
原子爆弾による被害者及びその家族で構成する「筑紫原爆被害者の会」の活動を支援する目的として、補助金を交付している。補助金額については筑紫地区で決められた算出方法となっている。近年高齢化により会員が減少している。				備考・特記事項 or 進行管理欄					